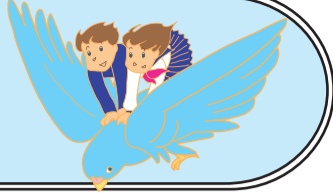


君とつばさ



交通遺児育英会機関紙

©平成22年10月1日発行
 発行・財団法人交通遺児育英会
 〒102- 東京都千代田区平河町2-6-1
 0093 (電話) 0 3 (3 5 5 6) 0 7 7 1
 (HP) http://www.kotsuji.com



研修修了証を手にして喜ぶ研修生たち

交通遺児育英会が、夏休みの7月下旬から8月初めにかけて実施している英語圏内での海外語学研修も今年で7回目を迎えた。

この研修は、現地の家庭に3〜4週間ホームステイしながら英語学校に通い、世界中から集まった同年代の若者との交流を通じて、国際的視野と感覚を身に付け、将来、国際人として活躍できる青年を育成しようという目的で実施している。

異文化交流に驚愕・感嘆 34人、イギリスなどで語学研修

もの。今年度の参加者34人は、貴重な体験を土産に無事帰国した。

(4、5面に特集記事)

今年の派遣先は、イギリスへ30人、エイ・エフ・エス(AFS)日本協会の協力によりカナダ、オーストラリアにそれぞれ2人を派遣した。

当初、研修生たちは、ホストファミリーとの意思疎通に苦労し、語学力の不足に悩んでいたが、時間の経過とともに研修を心から楽しむようになっていった。その結果帰国にあたって、「普段できない経験をすることができ、本当に成長できた気がします」「一生忘れない経験ができました」「この研修でいろんなことを学びました。この経験を大切に次のステップに進みます」と口々に語り、短期間ながらも、直に相手国の歴史や文化を見聞し、学ぶことができたようだ。

思いのたけ語り 親睦深める

中部・近畿から48家族113人が参加



平成22年度の「高校奨学生と保護者のつどい」が、8月21、22、23日の3日間、千葉市のアパホテル&リゾート(東京ベイ幕張)と東京ディズニーランドで開催された。今年度は、中部・近畿地区14府県から48家族113人が参加した。同じ境遇にある奨学生、保護者同士が、胸に秘めた不安や悩みを語り合い、親睦を深めた。

(2、3面に特集記事)

評議員・柳田さん、母親としての心境語る

「つどい」の初日は、中根晃理事長の「明日の希望のために、楽しいひとときを過ごしていただけることを願っております」との挨拶で幕を開けた。

大学奨学生とお母さんの講演。今年のタイトルは「先輩奨学生とお母さんからのメッセージ」である。

まず、2人の心塾生、和田有代さんと横江達哉君が登場。和田さんは、事故で脊椎損傷し、車椅子生活を過ごす父との生活を、「今は幸せな人生を歩んでいますが、力強く言い切った。」

プロ野球選手を目指していた横江君は、自分の経験から「努力によって無限の道が広がっていく」と、後輩の高校生に勧めた。そのほか、今年度の「高校奨学生と保護者の相談会」が始まった。初回は7月10、11日に岩手県で、次いで9月11、12日福岡県で実施。

岩手県では、隣県の青森、秋田県からの来訪者もいた。相談内容は、海外語学研修に応募したが、作文で落とされた、「こんなことを書けばいいのか」と聞かれ、「研修で何を学びたいのか、それを具体的に書いては」と応え、来年、再度の応募を勧めた。そのほか、

今年度の相談会スタート

「つどい」の初日は、中根晃理事長の「明日の希望のために、楽しいひとときを過ごしていただけることを願っております」との挨拶で幕を開けた。

大学奨学生とお母さんの講演。今年のタイトルは「先輩奨学生とお母さんからのメッセージ」である。

まず、2人の心塾生、和田有代さんと横江達哉君が登場。和田さんは、事故で脊椎損傷し、車椅子生活を過ごす父との生活を、「今は幸せな人生を歩んでいますが、力強く言い切った。」

プロ野球選手を目指していた横江君は、自分の経験から「努力によって無限の道が広がっていく」と、後輩の高校生に勧めた。そのほか、今年度の「高校奨学生と保護者の相談会」が始まった。初回は7月10、11日に岩手県で、次いで9月11、12日福岡県で実施。

岩手県では、隣県の青森、秋田県からの来訪者もいた。相談内容は、海外語学研修に応募したが、作文で落とされた、「こんなことを書けばいいのか」と聞かれ、「研修で何を学びたいのか、それを具体的に書いては」と応え、来年、再度の応募を勧めた。そのほか、



岩手県



や、「進学すると、高校時代の奨学金返還はどうなるのか」の質問もあった。後者は、返還猶予制度の説明をして納得してもらった。

今後の相談会は、10月に四国2県、11月に鹿児島県、12月に東京都で開く予定である。



福岡県



職業、育ててくれた人に伝えたいことなどを、保護者グループでは現在の生活、直面する問題や悩み、子どもに伝えたいこと、育英会への要望などを課題に熱心な話し合いが行われた。

最後に、市村智一事務局長が懇談会の総括を、心塾生の島香りえさんが、心塾生グループでは、卒業後の進路、将来就きたい職業、育ててくれた人に伝えたいことなどを、保護者グループでは現在の生活、直面する問題や悩み、子どもに伝えたいこと、育英会への要望などを課題に熱心な話し合いが行われた。

最後に、市村智一事務局長が懇談会の総括を、心塾生の島香りえさんが、心塾生グループでは、卒業後の進路、将来就きたい職業、育ててくれた人に伝えたいことなどを、保護者グループでは現在の生活、直面する問題や悩み、子どもに伝えたいこと、育英会への要望などを課題に熱心な話し合いが行われた。

職業、育ててくれた人に伝えたいことなどを、保護者グループでは現在の生活、直面する問題や悩み、子どもに伝えたいこと、育英会への要望などを課題に熱心な話し合いが行われた。

最後に、市村智一事務局長が懇談会の総括を、心塾生の島香りえさんが、心塾生グループでは、卒業後の進路、将来就きたい職業、育ててくれた人に伝えたいことなどを、保護者グループでは現在の生活、直面する問題や悩み、子どもに伝えたいこと、育英会への要望などを課題に熱心な話し合いが行われた。

最後に、市村智一事務局長が懇談会の総括を、心塾生の島香りえさんが、心塾生グループでは、卒業後の進路、将来就きたい職業、育ててくれた人に伝えたいことなどを、保護者グループでは現在の生活、直面する問題や悩み、子どもに伝えたいこと、育英会への要望などを課題に熱心な話し合いが行われた。

【おとわり】「奨学生Q&A」「高校生の声」は休みま



9月に入ったというのにまだ猛暑が続いている。寝苦しい夜を耐えるのはどうに限りを超えて

同じ境遇 悩み分かち合う

1日目

今年の「つどい」は、午後1時45分、中根児理事長の「このつどいは、交通遺児育英会の奨学事業とともに育英会の奨学事業とともにに行っている相談会や海外語学研修と並ぶ指導事業の一つです。交通遺児育英会が、皆さまのより身近な存在としていただけたらと希望しております」との挨拶で始まりました。

その後、昨年初めて行って好評だった大学奨学生とお母さんの講演へと続きました。

最初に2人の心塾生、和田有代さん(恵泉女学園大

4年)と横江達哉君(工学院大3年)が壇上に上った。和代さんは、事故で脊椎損傷し、車椅子生活を余儀なくされた父、父を支えるため大学編入試験を受け、社会福祉士の資格を取った母、そんな両親見守られながら成長してきた生活を、「私は交通事故をマイナスには考えず、貴重な経験の一つであると考えたので、障害者との生活から得られたことがたくさんあり、今は幸せな人生を歩んでいます」と、前向きに考えることの大切さを力説した。

横江君は、プロ野球選手を目指して有名高校に入学。そこでスランプに陥ったとき、監督に「努力しても何も変わらないかもしれないが、努力しなければ自分を変えることはできない」と言われて奮奮し、スランプを克服した経験を語り、「目の前には努力するこ

とによって切り開くことができる無限の道が広がっている」と、力強いメッセージを送ってくれた。

最後に、評議員でもあり、財団法人広島市母子寡婦福祉連合会母子部長を務めている柳田裕美さんが、夫亡き後2人目の子どもを身籠ったことを知ったとき、「夫が最後の最後に新しい命を残してくれた」と自分の経験を踏まえながら、悲しさとともに前を向いて歩いていくしかない、参加者に呼び掛けた(柳田さんの講演要旨は下段参照)。

講演後の午後4時15分からは、奨学生、保護者は各6グループに分かれ、中根理事長はじめ、職員、心塾生も参加して懇談会を開いた。奨学生グループでは、卒業後の進路、将来就きたい職業、講演会の感想などを



心塾生とお母さんの講演に、参加者は共感を持って耳を傾けた

つどい 特集



和田有代さん

「父親がいないので息子の悩みに対処できない部分がある」などの切実な思いを述べる意見に賛同が集まった。

育英会へは、「相談会よりも交流会のようなイベントを考えてほしい」「関東、関西以外の名古屋などにも寮を作してほしい」などの要望が寄せられた。

講演については、「自分の体験と重なるところがあり、感動した」「共感し、前向きに生きていこうと思っ

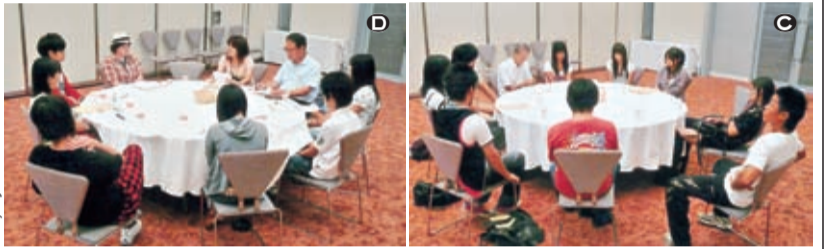
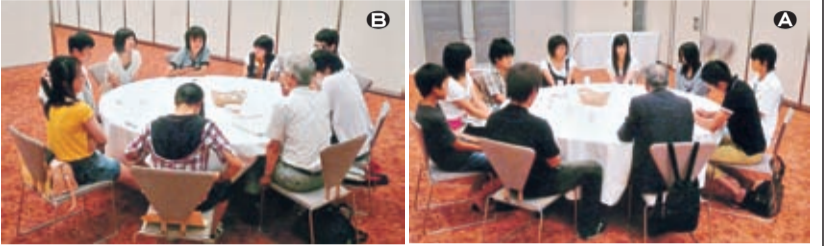


横江達哉君

「父がいないので息子の悩みに対処できない部分がある」などの切実な思いを述べる意見に賛同が集まった。

育英会へは、「相談会よりも交流会のようなイベントを考えてほしい」「関東、関西以外の名古屋などにも寮を作してほしい」などの要望が寄せられた。

講演については、「自分の体験と重なるところがあり、感動した」「共感し、前向きに生きていこうと思っ



「父がいないので息子の悩みに対処できない部分がある」などの切実な思いを述べる意見に賛同が集まった。

育英会へは、「相談会よりも交流会のようなイベントを考えてほしい」「関東、関西以外の名古屋などにも寮を作してほしい」などの要望が寄せられた。

講演については、「自分の体験と重なるところがあり、感動した」「共感し、前向きに生きていこうと思っ

「父がいないので息子の悩みに対処できない部分がある」などの切実な思いを述べる意見に賛同が集まった。

育英会へは、「相談会よりも交流会のようなイベントを考えてほしい」「関東、関西以外の名古屋などにも寮を作してほしい」などの要望が寄せられた。

講演については、「自分の体験と重なるところがあり、感動した」「共感し、前向きに生きていこうと思っ

「父がいないので息子の悩みに対処できない部分がある」などの切実な思いを述べる意見に賛同が集まった。

育英会へは、「相談会よりも交流会のようなイベントを考えてほしい」「関東、関西以外の名古屋などにも寮を作してほしい」などの要望が寄せられた。

講演については、「自分の体験と重なるところがあり、感動した」「共感し、前向きに生きていこうと思っ



懇談会の様子
奨学生グループ
保護者グループ



KYO BAY MAKUHI

お母さんの講演

広島市 柳田 裕美さん

私の夫は、平成2年に中国縦貫道で亡くなりました。結婚して3年、そろそろ2人目の子どもとを考えていた矢先の26歳の時です。事故の連絡を受けた私は、何もできなくなりました。

そんな私の気持ちを奮い立たせてくれたのが、初七日の日、2人目の妊娠を知ったことです。夫が最後の最後で私と娘に新しい命を残してくれたのだ、という喜びと感謝の気持ちで、夫の分まで踏ん張っていかなくてはと強く思ったのです。

公民館での子育てセミナーに参加したとき講師の先生に、「母子家庭は母子密着の度合いが高くなるので、お母さん自身、大人の友達

「父がいないので息子の悩みに対処できない部分がある」などの切実な思いを述べる意見に賛同が集まった。

育英会へは、「相談会よりも交流会のようなイベントを考えてほしい」「関東、関西以外の名古屋などにも寮を作してほしい」などの要望が寄せられた。

講演については、「自分の体験と重なるところがあり、感動した」「共感し、前向きに生きていこうと思っ

つどいアンケート調査

今年の参加者(奨学生42人、保護者45人)に記入してもらったアンケート結果を紹介しよう。

Q1 参加してみてもいいかな? (14人)の項目。保護者では、「いろいろな意見を聞いて影響を受けた」(34人)、「悩みが自分だけではないことが分かった」(30人)の項目がトップ2。そのほかでは、「懇談会が楽しかった」(26人)、「懇談会が楽しかった」(22人)と続いた。

Q2 良かったところ? (26人)、「学生寮の様子が多かった」(22人)と続いた。

Q3 改善すべき点? (14人)と最多だったのに対して、保護者には「とても良かった」(18人)、「他人の将来計

「父がいないので息子の悩みに対処できない部分がある」などの切実な思いを述べる意見に賛同が集まった。

育英会へは、「相談会よりも交流会のようなイベントを考えてほしい」「関東、関西以外の名古屋などにも寮を作してほしい」などの要望が寄せられた。

講演については、「自分の体験と重なるところがあり、感動した」「共感し、前向きに生きていこうと思っ

「父がいないので息子の悩みに対処できない部分がある」などの切実な思いを述べる意見に賛同が集まった。

育英会へは、「相談会よりも交流会のようなイベントを考えてほしい」「関東、関西以外の名古屋などにも寮を作してほしい」などの要望が寄せられた。

講演については、「自分の体験と重なるところがあり、感動した」「共感し、前向きに生きていこうと思っ

「父がいないので息子の悩みに対処できない部分がある」などの切実な思いを述べる意見に賛同が集まった。

育英会へは、「相談会よりも交流会のようなイベントを考えてほしい」「関東、関西以外の名古屋などにも寮を作してほしい」などの要望が寄せられた。

講演については、「自分の体験と重なるところがあり、感動した」「共感し、前向きに生きていこうと思っ

「父がいないので息子の悩みに対処できない部分がある」などの切実な思いを述べる意見に賛同が集まった。

育英会へは、「相談会よりも交流会のようなイベントを考えてほしい」「関東、関西以外の名古屋などにも寮を作してほしい」などの要望が寄せられた。

講演については、「自分の体験と重なるところがあり、感動した」「共感し、前向きに生きていこうと思っ

「父がいないので息子の悩みに対処できない部分がある」などの切実な思いを述べる意見に賛同が集まった。

育英会へは、「相談会よりも交流会のようなイベントを考えてほしい」「関東、関西以外の名古屋などにも寮を作してほしい」などの要望が寄せられた。

講演については、「自分の体験と重なるところがあり、感動した」「共感し、前向きに生きていこうと思っ

「父がいないので息子の悩みに対処できない部分がある」などの切実な思いを述べる意見に賛同が集まった。

育英会へは、「相談会よりも交流会のようなイベントを考えてほしい」「関東、関西以外の名古屋などにも寮を作してほしい」などの要望が寄せられた。

講演については、「自分の体験と重なるところがあり、感動した」「共感し、前向きに生きていこうと思っ

先輩

お元気ですか

9月に入ったというのに、灼熱の太陽が、波静かな岸壁を容赦なく照らしていた。ここは岡山県倉敷市児島地区、瀬戸大橋の麓にある水島港に面した広大な埠頭。とうもろこし、マイロ(とうりゃん)、大豆粕などを満載した外国船から、橋形アンローダーと呼ばれる大型荷役機を使って急ピッチで荷揚げが行われていた。

「あそこで動いている機械、一度に20トンのとうもろこしを掬い上げているんです」と、説明してくれたのが、今回の先輩で、瀬戸埠頭株式会社施設部サイロチーム課長、土居邦博さん(38)である。

土居さんが勤める瀬戸埠頭は、日本有数の大企業が集まっている水島コンビナートの一角にある。荷役から配送、保管、加工までの港湾運送事業のすべてを運営している総合物流会社で、三菱商事の関連会社である。



土居邦博さん(38)は、このように瀬戸埠頭に入社して、約13年が経ちました。

瀬戸埠頭株式会社

土居 邦博さん

戸埠頭では20年ぶりの大卒者だったという。自宅から通勤でき、自分の専門が活かされることを希望していた彼にとって、願ったりかなったりの会社であった。現在土居さんは、サイロチームに所属している。業務は穀物の入出荷時のオペレーション業務、預かって

ベテランの域に入り 仕事も趣味も充実



いる穀物の品質管理、それにサイロ内の電気関係の保全業務である。サイロチームが取り扱っている貨物は、穀物類だけである。一番取扱量の多いのが、コーンスターチや家畜のえさに加工されているとうもろこし。このほか、マイロと呼ばれるヒエやアワなどの雑穀類。大豆から油を絞った後の大豆粕。そのほか、小麦粉等に加工される小麦と家畜のえき用として使用される大麦の麦

〈略歴〉

岡山県倉敷市生まれ。1991年、岡山県立児島高校卒業。同年、岡山理科大学工学部電子工学科入学。95年、同大学卒業後、瀬戸埠頭株式会社入社。海務部工務チームに配属。2000年、施設部サイロチームに異動、現在に至る。妻・エミさんと2人の娘さん、4人家族で倉敷市内に住む。38歳。

「昔は徹夜作業もよくありましたが、今はほぼ勤務時間内に仕事が終わります。有給休暇も確実に取れますので、満足しています」と、土居さんは明るく語ってくれた。

時間的に余裕のある土居さんは、趣味はもっぱらスポーツ観戦。あまり家から出ない中で唯一遠征するのがF1観戦。昨年鈴鹿で目の当たりにしてはまってしまい、今年も3日間現地に赴く。「去年F1に行って、リレーのアンカーを走った娘の運動会を見ることができなかつたんです」

2年前、実家近くに新居を建てた。ケアマネージャとして働いている奥さんのエミさんは毎晩遅くなるので、小学1年の息子さんと2歳の涼子ちゃんの2人の娘さんの面倒は、もっぱら土居さんの実母・美智子さんにお願しているという。秋には、10年ぶりに昔いた工務チームに異動すると、土居さん、充実した職場、家庭生活に満足感が漂っていた。

進む高齢化社会、家族が少人数となり介護機能が弱体化、さらに医療政策による看護師の配置増などを要因として、看護師の需要がますます増大しています。しかし、健康な心身と強い精神力・コミュニケーション能力を求められる看護師の仕事は、やりがいがある一方で、つねに緊張を強いられる厳しい仕事ともいえます。

今回は看護師への道を志している森栄梨香さんにインタビューしました。

◇ 入学して1年半、ちょうど半分ですね。

森 1学年2クラス、10人の男子を含め64人ほど。社会人を経て入学した学生もいますし、県外からの人も多いです。今ではクラスの垣根を越えてみんな仲がいいです。大事な友人もできました。

―看護師を目指したきっかけは何ですか。

森 高校1年のときに母が事故に遭い、入院しました。その時お世話をしてくれていた女性の看護師さんの優しさ、温かさに触れ、どうしても自分も看護の道を進みたいという思いに駆られました。

―授業はどうですか。

森 基礎分野から専門基礎分野、専門分野、総合分野と3年間の履修単位が97。毎日9時から4時10分まで90分授業がびっしりで、土曜日にも補習授業があります。

森 栄梨香さん

山形厚生看護学校 2年



山形厚生看護学校 後藤マキ子校長。昭和7年2月創立。現3年課程は平成4年から看護専修学校として発足。所在地は山形県山形市。学生数約240人。

《教育理念》 安全で安心できる看護を实践できる看護師 一人ひとりに心を寄せ、個人を尊重できる看護師 社会から求められる看護師の育成をめざします

―格別な感慨がわきまに行っても対応できるようにしたいです。

―研修旅行はどこへ行くのですか。

森 これは2年生が対象で、私は半年後の1月。東京大学へ行き、標本室の見学をします。とても楽しみです。

―就職はどちらに。

森 私の学校は就職率100%。その6割近くが県内の病院に決まっています。私も地元病院に決まっています。私も地元病院に決まっています。私も地元病院に決まっています。

―余暇は何をしていますか。

森 時間を見つけて友達とドライブがてら買い物をするくらいですね。

母の事故を機に看護師志望

母の事故を機に看護師志望

森 1年生ではまず見習いとして、患者さんや病院など療養生活環境を知ることが始まります。2年生になると初めて患者さんを受け持ち、看護師さんの指導のもと、看護過程に沿って実習をします。ちょうど今3週間になりました。3年生になると成人・小児、あるいは総合と専門的実習を体験します。学校の登校日は月曜日だけ。すべて看護の基礎となるカリキュラムが組まれています。

―戴帽式はありましたか。

森 2年生の6月に行われましたが、まず看護学生としての適正な資質と学力をみる試験があります。合格した後、今度は、学生全



山形厚生看護学校

森 知識・技術だけの看護ではなく患者さんの心に寄り添える、そしてその家族の方々に気を配れる看護師―そうありたいものだと考えています。

◇ 中学・高校を通し新体操部にいたという森さんは「体育系の大学へ」という希望を持っていたそうです。お母さんが事故に遭ったのは3年前。そのため大学進学は断念したけれど「でも家族との心の絆が最も大切」と話す森さんです。まだまだ厳しい勉強は続きますが、緑に囲まれて丘の上に立つ校舎を後にするときは、新体操の得意な、心優しい看護師さんが誕生します。



ショップの前で
本さんの癒しの技術を頼ってやってくる。

説明に聞き入る高齢者の団体。その人たちに訴えるように「原爆と戦争展」の宣伝カーが走り回っている。

お母さんただいま奮闘中

広島市 北本 智恵子さん

原爆ドームを無言で仰ぎ見る人々、デジカメを構える外国人観光客ら、そして爆心地碑の前にはガイドの

原爆記念日を控えた広島市の北の玄関口として栄えてきた。明治36年、その年の8月の太陽は、さまざまに思いの、さまざまに人たちの心に焼き付けた。この中心街から西へ約2キロ、JR広島駅の西隣の横川駅を中心に、太田川など三つの川に挟まれるようにして横川の街がある。古くから交通の要所で、広島を

エステとバラをモチーフの輸入雑貨店を同時経営

横川駅から徒歩3〜4分、車の往来の激しい可部街道に面した4階建てビルの一階に、ウインドーも華やかなショップがある。ここがエステと輸入雑貨の店「ANGEL RING」エンジェルリング。ドアを開けるとすぐにバラをあしらったさまざまな小物とエンジェルグッツ群が目飛び込んでくる。北本さん自身、バラが大好きだし、女性なら誰でも最も好む花だということから「エンジェルリング」はバラをモチーフにしている。輸入雑貨の持つ魅力的な雰囲気の内、広さ66平方メートルの店内は、BGMのオルゴールの音色も快い。小物雑貨の間を縫っていくと左側に、ベッドを2台並べたエステルームがある。エステにリラクゼーション、タイ式フット、まつ毛カール、それにアロマセラピーとリンパマッサージもやっ



北本さんの見事な作品

店内には、バラグッツ、天使の置物、ランプ、バスグッツなど多種多様な輸入雑貨が数えきれないほど陳列してある。エステオーブではいながら、手探り状態で始めて、少しずつ会得していった。オープンしてすぐ、クリスマスバージョンで自作のツリーやリースを飾ったところ、それが人目を引いて店が知られるようになり、



ゴージャスなエステルーム

月。エステの技術は、夫・正一さんと死別後、可部で店を開いて義姉の手伝いをしていて身に付けていたので問題はなかったが、

雑貨は自らのセンス駆使 人とのかわりを大事に



コーヒーを飲みながらおしゃべり

「君を幸せにできるのは自分以外、どこにも、誰もいない」これがプロボースの言葉だった。その頃、広島市内の子供服の店に勤めていた北本さんは、友人の兄を通してご主人となる正一さんと知り合う。正一さんはプロボ

「君を幸せにできるのは自分以外、どこにも、誰もいない」これがプロボースの言葉だった。その頃、広島市内の子供服の店に勤めていた北本さんは、友人の兄を通してご主人となる正一さんと知り合う。正一さんはプロボ

「君を幸せにできるのは自分以外、どこにも、誰もいない」これがプロボースの言葉だった。その頃、広島市内の子供服の店に勤めていた北本さんは、友人の兄を通してご主人となる正一さんと知り合う。正一さんはプロボ

「君を幸せにできるのは自分以外、どこにも、誰もいない」これがプロボースの言葉だった。その頃、広島市内の子供服の店に勤めていた北本さんは、友人の兄を通してご主人となる正一さんと知り合う。正一さんはプロボ

「君を幸せにできるのは自分以外、どこにも、誰もいない」これがプロボースの言葉だった。その頃、広島市内の子供服の店に勤めていた北本さんは、友人の兄を通してご主人となる正一さんと知り合う。正一さんはプロボ



「一緒に写真をとるなんてないんですよ」とこぼす顔の北本さん

「一緒に写真をとるなんてないんですよ」とこぼす顔の北本さん

「一緒に写真をとるなんてないんですよ」とこぼす顔の北本さん

「一緒に写真をとるなんてないんですよ」とこぼす顔の北本さん

子どもは自分の選ぶ道へ 店での一人の時間が活力

中高一貫校の英数学館に入学以来、健人君は剣道部に所属、4年間、寮暮らしをしてきたが高2になって退部した。ずっとパティシエ志望で専門学校へ進むつもりでいたが、父親が残していった心理学関係の本を読んでから、俄然そっちの

は生前「この子には好きなことをさせてやりたい」と言っていたが、その言葉を聞いて、健人君が選んだ道を歩ませてやりたいと思う。この空間がとも気に入っています

ご主人と一緒に暮らしたのが12年、ご主人を事故に奪われてから12年。ここは一人の時間を静かに過ごす場所であり、また「二つの12年」を振り返り、ご主人への想いを反芻するための

ご主人が仕事で下関市に向かったのは平成10年6月。雨の中国道で乗用車の単独事故を目撃する。二次事故防止のために車を降り後続車に合図を送っていたが、スリッパしてきたトラックに跳ねられてしまう。朝、いつもの元気な笑顔を

ご主人が仕事で下関市に向かったのは平成10年6月。雨の中国道で乗用車の単独事故を目撃する。二次事故防止のために車を降り後続車に合図を送っていたが、スリッパしてきたトラックに跳ねられてしまう。朝、いつもの元気な笑顔を

ご主人が仕事で下関市に向かったのは平成10年6月。雨の中国道で乗用車の単独事故を目撃する。二次事故防止のために車を降り後続車に合図を送っていたが、スリッパしてきたトラックに跳ねられてしまう。朝、いつもの元気な笑顔を

ご主人が仕事で下関市に向かったのは平成10年6月。雨の中国道で乗用車の単独事故を目撃する。二次事故防止のために車を降り後続車に合図を送っていたが、スリッパしてきたトラックに跳ねられてしまう。朝、いつもの元気な笑顔を

ご主人が仕事で下関市に向かったのは平成10年6月。雨の中国道で乗用車の単独事故を目撃する。二次事故防止のために車を降り後続車に合図を送っていたが、スリッパしてきたトラックに跳ねられてしまう。朝、いつもの元気な笑顔を



君は、脳の知・情・意という働きそのものなのだ、心が痛むなど自分そのものへの意識でもあり、子どもの心から大人の心へと、身体の成長とはほぼ並行して心も育っていく。

生後数カ月、人見知りが始まる少し前の乳児はベッドの上から、親の顔を見て口元に笑顔を見せるようになる。これは最初の微笑といわれているが、母親と乳児の間に起る初めての心のつながりであろう。乳児自身も母親との心のつながりを感じていく中で、心の中に母親という存在が出現してくる。最初の微笑が心の育ちの出発点なのである。

先日、お施餓鬼法要で寺の住職が、法要は阿弥陀如来と信者が心をつなぐ場であると話しておられた。葬式仏教と掛けられがちな仏教だが、ここに慈悲の心を説く仏教と、神を絶対者とするキリスト教との違いがあるように思われた。

最近の脳の科学は個々の精神活動を果たす脳の部位は明らかになっているが、心の部位については何も言っていない。心は脳科学の対象とはならないからであらう。

ヒトの心の特徴づけるのは、前頭前野の機能であると考えられる。それは相手の考えを読みとりながら、事態への対応を図る働きを担っているからで、そこを心の部位だとする研究者もいる。

みんなで考えるメンタルヘルス ⑱

心をつなぐ

中根 晃 (理事長・元実践女子大学教授)

互いに相手の心をつなぎ留めるのに汲々としていて、子どもの存在は意識のどこかにはあっても、眼中になくなってしまっている。加害事件のあと、新聞やテレビで子どもがなつかなかった、可愛いと思えなくなったと報じられるが、実際には心の余裕のなさである。

幼児は、母親との心のつながりを保ちつつ成長していく。3歳頃までは、母親が近くにいると不安を感じるが、やがて、母親の居場所がわかっていけば、長時間、友だちと遊んでいるようになる。こうして母親と一体だった心も、自立していく。

楽しい時には全身で楽しんでいるようになる。こうして母親と一体だった心も、自立していく。

楽しい時には全身で楽しんでいるようになる。こうして母親と一体だった心も、自立していく。

燃える青春

部活動拝見 放送部

鳥取県 県立米子南高校 2年

寺嶋 比佐子さん (17)



「全国のいろいろな学校の作品を見た、上手な人のアワードや朗読を聞いて、寺嶋さんは、鳥取県立米子南高校の放送部員。8月上旬、宮崎県で開催された第34回全国高等学校総合文化祭に、鳥取県代表として放送部門のビデオメッセージ部門に作品を出品したのである。」

JR米子駅から歩いて約20分、住宅地の一角にある米子南高校は、80年の歴史がある。



暑くて、狭い部室で、コンテスト出品作についての熱心な話し合いが続く

人が熱心に話し合っている。秋のコンテストに向けての出品作の話だ。コンテストは、アナウンスのこの作品は、名峰・大人が熱心に話し合っている。秋のコンテストに向けての出品作の話だ。コンテストは、アナウンスのこの作品は、名峰・大...

全国大会に行き、夢さらに膨らむ

「全国大会に行き、夢さらに膨らむ」というのは、今年度の奨学生・寺嶋比佐子さんである。寺嶋さんは、鳥取県立米子南高校の放送部員。8月上旬、宮崎県で開催された第34回全国高等学校総合文化祭に、鳥取県代表として放送部門のビデオメッセージ部門に作品を出品したのである。

JR米子駅から歩いて約20分、住宅地の一角にある米子南高校は、80年の歴史がある。

「伝承」



油彩・木製パネル

岩手大学 教育学部 芸術文化課程 造形コース (美術専修) 3年

小野寺 愛



寺嶋さんの朗読を聞く部員たち

「顔をみるといって断られた」と「和牛がおいしかった」という客ばかりで、肝心のパンについてしゃべってくれた人が少なかった。「聞きたいことを答えてくれるような質問ができなかった」と、部員たちは口々にその希望を語った。また、一方では、慣れない編集作業が難しく、提出期限ギリギリまで台本ができて、最後はバタバタだったともいえる。



米子南高校の1、2年生の放送部員たち(寺嶋さんは前列中央)